(103D) ピッチ角保持3(ピッチ角保持2+内部モデル制御)

2019(R1).10.27(D) 片柳亮二

1. ピッチ角保持2の設計

ピッチ角保持3の制御則は、図1.1に示すピッチ角保持2の最適ゲイン計算 をまず行う必要がある.この計算を行うことにより、図1.1のゲインがファイ ルに保存される.「ピッチ角保持3」では、その保存されたファイルのゲインを 用いて内部モデル制御を構築していく.ピッチ角保持2の計算については、「ピ ッチ角保持2」の資料にまとめているので、それを参照願いたい.



図 1.1 ピッチ角保持 2 の制御系

2. ピッチ角保持3の設計

ピッチ角保持2によるシミュレーション結果をみると、十分安定であるが、 ピッチ角コマンドに対して、ピッチ角(θ)の応答が十分追従していない.これ は、 θ/θ_m の極と零点が離れているためである.そこで、ピッチ角をコマンドに 追従させるために、ピッチ角保持2に内部モデル制御を適用したピッチ角保持 3の設計を行う.



図 2.1 内部モデル制御のブロック図

図 2.1 は、図 1.1 のピッチ角制御系に内部モデル制御を適用したブロック図 である.ここで、θ/Z29 のピッチ角制御系は、図 1.1 に示したもので、その極・ 零点は次の値である. **** POLES AND ZEROS ***** POLES(7), EIVMAX= 0.2952D+02 (ωA^2) IMAG Ν REAL 1 -0.20662783D+02 -0.21089560D+02 [0.6998E+00, 0.2952E+02] 1 2 -0.20662783D+02 -0.99391726D+00 -0.99401198D+00 [0.7071E+00, 0.1406E+01] 3 -0.99391726D+00 0.99401198D+00 周期 P(sec)= 0.6321E+01 4 5 -0.26646899D+00 -0.26675018D+00 [0.7067E+00, 0.3770E+00] -0. 26646899D+00 0. 26675018D+00 周期 P(sec)= 0.2355E+02 6 -0.55986523D-01 0.0000000D+00 7 ZEROS(3), II/JJ= 7/1, G= 0.9074D+03 \Rightarrow G Ν REAL IMAG 1 -0.78899022D+00 0.0000000D+00 2 -0.32701111D+00 0.0000000D+00 3 -0.50218987D-01 0.0000000D+00

3. 内部モデル制御について

ピッチ角保持2の制御系の結果から、θ/Z29のピッチ角制御系の極の内、ア クチュエータ極は省略すると、内部モデル制御の制御対象のモデルは次のよう に表される.

 $\frac{\theta}{\text{Z29}} = \frac{Q(s)}{P(s)} = \frac{(\text{G}=)907.4}{(\omega_{\text{A}} \wedge 2=)29.52^2} \times \frac{(s+0.7890) \cdot (s+0.3270) \cdot (s+0.05022)}{(s+0.05599) \cdot [0.7071, 1.406] \cdot [0.7067, 0.3770]}$

ここで、
$$[\zeta, \omega]$$
の表現は、 $[s^2 + 2\zeta \omega s + \omega^2]$ を省略したものである.
これから、制御対象の逆関数に分母分子の次数を合わせて次のようにおく.

$$\frac{1}{T_d^2 s(s+2/T_d)} \cdot \frac{\tilde{P}(s)}{\tilde{Q}(s)} = \frac{1}{T_d^2} \cdot \frac{(\omega_A^2 =)29.52^2}{(G =)907.4}$$

$$\times \frac{s+0.05599}{s+0.7890} \cdot \frac{[0.7071, 1.406]}{s(s+2/T_d)} \cdot \frac{[0.7067, 0.3770]}{(s+0.3270) \cdot (s+0.05022)}$$
ここで、 $T_d = 0.5$ (s) と仮定すると、この式の右辺の定数項と1次/1次式は
$$\frac{1}{T_d^2} \cdot \frac{(\omega_A^2 =)29.52^2}{(G =)907.4} \cdot \frac{s+0.05599}{s+0.7890} = 3.841 \times 0.07096 \frac{1+17.86s}{1+1.267s}$$

$$= 0.2726 \frac{1+17.86s}{1+1.267s}$$

右辺の1つ目の2次/2次式は

$$\frac{[\zeta_p, \omega_p]}{s(s+2/T_d)} = \frac{s + \omega_p^2 T_d/2}{s} - \{1 + (T_d/2) \cdot (\omega_p^2 T_d/2 - 2\zeta_p \omega_p)\} \frac{1}{1 + (T_d/2)s}$$
$$= \frac{s + 0.4942}{s} - 0.6265 \frac{1}{1 + 0.25s}$$

この右辺の2つ目の2次/2次式の分母は次のようになる.

$$(s+a)\cdot(s+b) = \left[\frac{a+b}{2\sqrt{ab}}, \sqrt{ab}\right] = [1.472, 0.1281]$$

従って,次数を合わせた制御対象の逆関数(図 2.1 のブロック図の要素)は次の ようになる.

$$\frac{1}{T_d^2 s(s+2/T_d)} \cdot \frac{\tilde{P}(s)}{\tilde{Q}(s)} = 0.2726 \frac{1+17.86s}{1+1.267s} \times \left\{ \frac{s+0.4942}{s} - 0.6265 \frac{1}{1+0.25s} \right\} \cdot \frac{[0.7067, \ 0.3770]}{[1.472, \ 0.1281]}$$

この理論の詳細は参考資料 1)をご覧ください. これらの一連の計算は KMAP 内で自動的に処理されます.

4. ピッチ角保持3の具体的な設計

ピッチ角保持2の最適ゲインを計算した後は、これを基に内部モデル制御を 適用してピッチ角保持3に変換するのは、次の手順によって簡単に実現できる.

KMAP を起動して、まず、「ピッチ角保持 2」の最適ゲイン計算を実施する.これは KMAP を一度起動してから1回実施すればよい.(KMAP 再起動時は再度実行する必要がある)

次に,計算実行後に表示される「解析結果の表示」画面において,「00」と 0を2回キーイン/Enter すると,初期画面に戻ります.ここで,

- ①「KMAP***解析内容選択」⇒ "23" キーイン
- ②「設計方式」⇒"13"をキーイン
- ③「機体データの取得方法」⇒ここでは例として、"99"をキーイン
- ④「機体データの取得」⇒ここでは例として"44"をキーイン

(CDES. B777-200. Y120505. DAT)

⑤「制御則の選択」⇒"103"キーイン

ピッチ角保持3(ピッチ角保持2+内部モデル制御)(102から変換) ⑥ピッチ角保持2を実施済みかどうかと表示されるので、1をキーイン ⑦「インプットデータ修正(後半部)」と表示されるので、次のようにキー イン 0 17

このとき,解析計算が自動的に実行されて,次の「解析結果の表示」の画面に なる.なお,この解析計算では,その前に計算された「ピッチ角保持 2」の最 適ゲインを用いて制御則内の構成を内部モデル制御に変換が実施されるだけで, 「ピッチ角保持 3」として最適ゲイン計算するわけではない. これで解析計算が自動的に実行されて,次の「解析結果の表示」の画面になる. ここで, "9"とすると「安定性解析結果」が数値で次のように表示される.

CBAR = 0.79460E+01 (m) S = 0.42800E+03 (m2) Hp = 0.15000E+04 (ft) W = 0.16091E+06 (kgf) qbarS = 0.19261E+06 (kgf) ROU = 0.11952E+00 (kgf·s2/m4) V = 0.86778E+02 (m/s) VKEAS= 0.16500E+03 (kt) $Iy = 0.29381E+07 (kgf \cdot m \cdot s2)$ = 0.37503E+01 (deg) CG = 0.25000E+02 (%MAC) θ = 0.37503E+01 (deg) a CL= 0.83552E+00 (-)= 0.13045E+00 (-) $CD \alpha = 0.83653E-02 (1/deg)$ CD (この CL, CD, CD α は初期釣合 G に必要な CL, CD, CD α です) T= 0.24890E+05 (kgf) δf = 0.20000E+02 (deg) δe =-0.18750E+01 (deg) 縦安定中正点 (neutral point) hn=(0.25-Cmα/CLα)*100= 0.48983E+02 (%MAC) 脚ΔCD= 0.20000E-01 (一), スピードブレーキΔCD= 0.40000E-01 (一) スピ[°]ードブ レーキ オーフ[°]ン, 初期フラッフ[°]角δfpilot= 0.20000E+02 (deg) 脚−DN. (微係数推算用フラッフ[°] δ f = 0.20000E+02 (deg))

(CG=25%)	(CG= 25.00%)	(プライムド有次元)
Cxu =-0.370422E+00	Cxu =-0.370422E+00	Xu =-0.352695E-01
$Cx\alpha = 0.621621E-02$	$Cx\alpha = 0.621621E-02$	$X\alpha = 0.743927E-01$
Czu = 0.00000E+00	Czu = 0.00000E+00	Zu' =-0.149163E+00
$CL\alpha = 0.107293E+00$	$CL\alpha = 0.107293E+00$	Zα' =-0. 845914E+00
CLδe= 0.579212E-02	$CL\delta e = 0.579212E-02$	Zδe' =-0. 448666E-01
CL8f= 0.215446E-01	CL8f = 0.215446E-01	Zδf' =-0. 166888E+00
Cmu = 0.00000E+00	Cmu = 0.00000E+00	Mu' = 0.319093E-01
$Cm\alpha = -0.257326E - 01$	$Cm\alpha 1 = -0.257326E - 01$	Mα' =-0.587124E+00
Cm8e=-0.221051E-01	Cm8e1=-0.221051E-01	Mδe'=-0.650209E+00
Cm&f=-0.625773E-02	Cm&f1=-0.625773E-02	Mδf'=−0.151084E+00
Cmq =-0.292629E+02	Cmq =-0.292629E+02	Mq' =-0.911825E+00
CmαD=-0.896966E+01	$Cm\alpha D = -0.896966E+01$	$M\Theta' = 0.158005E-02$
(Mu = 0.00000E+00)	$(M\alpha = -0.768083E+00)$	(Mδe =-0.659807E+00)
(Mδf =-0.186785E+00)	(Mq = -0.697904E+00)	$(M\alpha D = -0.213922E+00)$

(NAER0=11) 縦δeコントロールシステム解析 ●出力キーイン: i=4:u, 5:ALP, 6:q, 7:THE (不明なら7入力) ----(INPUT)---- 出力 i=7 *******(フィードバック前の極チェック)********* POLES(12), EIVMAX= 0.300D+02 Ν REAL IMAG -0.21424286D+02 [0.7000E+00, 0.3000E+02] 1 -0.2100000D+02 2 -0.2100000D+02 0.21424286D+02 周期 P(sec) = 0.2933E+00 -0. 4000000D+01 0.000000D+00 3 -0.88543502D+00 -0.76987169D+00 [0.7546E+00. 0.1173E+01] 4 5 -0.88543502D+00 0.76987169D+00 周期 P(sec)= 0.8161E+01 6 -0.79051384D+00 0.0000000D+00 0.0000000D+00 7 -0.32693395D+00 -0.11237217D+00 8 0.0000000D+00 9 0.0000000D+00 -0.50192426D-01 10 -0.11069158D-01 -0.11805050D+00 [0.9336E-01, 0.1186E+00] 11 -0.11069158D-01 0.11805050D+00 周期 P(sec)= 0.5322E+02 12 0.000000D+00 0.0000000D+00 (以下の解析結果はインプットデータの制御則による) **** POLES AND ZEROS ***** POLES(12), EIVMAX= 0.2959D+02 Ν REAL IMAG 1 -0.20765003D+02 -0.21076480D+02 [0.7018E+00, 0.2959E+02] 2 -0.20765003D+02 0.21076480D+02 周期 P(sec)= 0.2981E+00

3 -0.18968176D+01 -0.62077080D+00 [0.9504E+00, 0.1996E+01]

4	-0.18968176D+01	0.62077080D+00 周期 P(sec)= 0.1012	E+02
5	-0.99617650D+00	-0.99496799D+00 [0.7075E+00, 0.1408E	+01]
6	-0.99617650D+00	0.99496799D+00 周期 P(sec)= 0.6315	E+01
7	-0.79045278D+00	0.0000000D+00	
8	-0.32704348D+00	0.0000000D+00	
9	-0.26671160D+00	-0.26687889D+00 [0.7069E+00, 0.3773E	+00]
10	-0.26671160D+00	0.26687889D+00	E+02
11	-0.55927849D-01	0.0000000D+00	
12	-0.50178966D-01	0.0000000D+00	
ZER	OS(8), $II/JJ = 7/$	1. G= 0.3488D+04	
Ν	REAL	IMAG	
1	-0.99614997D+00	-0.99482924D+00 [0.7076E+00, 0.1408E	+01]
2	-0.99614997D+00	0.99482924D+00	
3	-0.79049008D+00	0.0000000D+00	
4	-0.32701111D+00	0.0000000D+00	
5	-0.26671337D+00	-0.26686938D+00 [0.7069E+00. 0.3773E	+001
6	-0.26671337D+00	0.26686938D+00	-
7	-0.55928414D-01	0.0000000D+00	
8	-0.50179632D-01	0.0000000D+00	
入力	」1.0のステップ応行	答定常值= 0.1000E+01	
***	** POLES AND ZEROS	S ****	
POLI	ES(12), $EIVMAX = 0$.	2952D+02	
Ν	REAL	IMAG	
1	-0.20661922D+02	-0.21088746D+02 [0.6998E+00, 0.2952E	+02]
2	-0.20661922D+02	0.21088746D+02 周期 P(sec)= 0.2979	E+00
3	-0.4000000D+01	0.000000D+00	
4	-0.99610067D+00	-0.99485873D+00 [0.7075E+00, 0.1408E	+01]
5	-0.99610067D+00	0.99485873D+00 周 期 P(sec)= 0.6316	E+01
6	-0.79051384D+00	0.0000000D+00	
7	-0.32693395D+00	0.0000000D+00	
8	-0.26669785D+00	-0.26685476D+00 [0.7069E+00, 0.3773E	+00]
9	-0.26669785D+00	0.26685476D+00 周	E+02
10	-0.55938158D-01	0.0000000D+00	
11	-0.50192426D-01	0.0000000D+00	
12	0.0000000D+00	0.0000000D+00	
ZER	DS(8), II/JJ=1/	4, G=-0.3488D+04	
Ν	REAL	IMAG	_
1	-0.99614997D+00	-0.99482924D+00 [0.7076E+00, 0.1408E	+01]
2	-0.99614997D+00	0.99482924D+00	
3	-0.79049008D+00	0.0000000D+00	
4	-0.32701111D+00	0.0000000D+00	
5	-0.26671337D+00	-0.26686938D+00 [0.7069E+00, 0.3773E	+00]
6			
U	-0.26671337D+00	0.26686938D+00	
7	-0. 26671337D+00 -0. 55928414D-01	0.26686938D+00 0.0000000D+00	
7 8	-0.26671337D+00 -0.55928414D-01 -0.50179632D-01	0.26686938D+00 0.0000000D+00 0.0000000D+00	

入力 1.0 のステップ応答定常値=-0.7139E+06

周波数 1.00000(rad/s) 9.10000(rad/s)	ゲイン余裕 (1) 26.51550 (位相余裕 (1)73.69183(deg) dB)	
ゲイン余裕最小値= 2	6.51550 (dB),	位相余裕最小值= 73.69183	(deg)
(注1)空中では初期速	度が 10kt を超え	, かつ, インプットデータで脚	」下げ指

(注 1) 空中では初期速度が 10kt を超え,かつ,インプットデータで脚下げ指定 の場合は脚 DN およびスピードブレーキオープンとしてトリム計算する. (注 2) 空中では初期速度が 10kt 以下の場合は,フラップと連動して,フラップ 5°以上で脚 DN とする.

(注 3) 滑走中は脚は常に DN, また, スピードブレーキは初期速度が 10kt を超える 場合にオープン.

次に、「解析結果の表示」の画面で「10」とキーイン/Enter すると、次の根 軌跡と極・零点の図を表示できる. 図 4.1 は根軌跡であるが、s=0.0 と $-4.0(s=-2/T_d)$ の極が近づいて上に上がって行き、アクチュエータのs=-20.7± j21.1 の極が左上に移動する単純な根軌跡となっていることがわかる.



図 4.2 の極・零点から、2つの振動根以外は、零点でキャンセルされている ことがわかる.



次に,「解析結果の表示」画面で「2」とキーイン/Enter すると,シミュレーション図を次のように Excel 表示させることができる.





図 4.3 から, ピッチ角コマンドに対してピッチ角がしっかり追従しているこ とがわかる.

参考資料

1) 片柳亮二: 例題で学ぶ航空制御工学, 技報堂出版, 2014.

以上